



X. 健康スポーツ医の活動の実際

6. 都道府県医師会・郡市区医師会の「健康スポーツ医活動向上」のための取り組み

兵庫県医師会における「兵庫県スポーツ医会」設立の取り組み

山根光量

健康スポーツ医と都道府県医師会の役割

国民の健康増進に対する要望が高まるにつれ、発育期の幼児、青少年、成人、老人等に対する運動指導を含め、地域保健の中でのスポーツ指導、運動指導を担うための医師の役割が極めて大きいことから日本医師会では健康スポーツ医を養成している。健康スポーツ医は、地域社会において、特定健診後の保健指導における運動指導や、運動を行う人に対して医学的診療、メディカルチェック、運動処方などを行い、さらに各種運動指導者等に指導助言を行っている。また、日本医師会ならびに都道府県医師会では健康スポーツ医学講習会を開催し、健康スポーツ医の養成や再研修を行っている。しかしながら、現場では健康スポーツ医が有効に活用されておらず、自治体や各種団体からの求めに応じ医師を派遣するような体制が整っていないために、スポーツ医学に関与する医師の組織づくりや体制整備を行い、地域における健康スポーツ医がその実践的活動の振興を図る活動が以前より求められてきた。

兵庫県医師会での組織化

兵庫県医師会では、健康スポーツ医講習会を通じて、健康スポーツ医の更新認定を行ってきたが、地域保健活動の一環として行政、企業等からの求めに応じて健康スポーツ医を活用する地域現場の体制がないことから、2016年より健康スポーツ医組織化の検討を開始した。健康スポーツ医は、診療科や専門分野、活動範囲が広く多岐にわたっており、まず初めに健康スポーツ医に対してアンケートによる活動調査を行った。次に、健康スポーツ医を有効に活用し、行政を介した各種スポーツ大会での救護活動、教育委員会からの学校

現場でのスポーツ活動、企業などから産業保健活動の中での運動指導等の要請に応じる体制をつくる目的で、2019年3月に「兵庫県スポーツ医会」を設立した。兵庫県スポーツ医会への入会にあたり、診療科目や診療可能なスポーツ種目等を掲載した名簿および出務規定を作成し、兵庫県医師会および郡市区医師会を通じて各種団体等からの要望に応えられるようにした。

スポーツ医活動調査

健康スポーツ医に対して行ったスポーツ医活動に関するアンケート調査では、兵庫県医師会会員である日本医師会認定健康スポーツ医430名にアンケートを行い193名(44.9%)から回答を回収した。診療科では内科が最多で105名、整形外科56名、外科51名、小児科17名であった。また、日本医師会認定健康スポーツ医のほか日本整形外科学会認定スポーツ医(27名)や日本スポーツ協会公認スポーツドクター資格(32名)を重複して持つ医師も複数いた。運動指導や運動処方に関しては約半数(90名)の医師が運動処方の作成経験があり、また指導可能な疾患としては糖尿病、高血圧、脂質異常症などを中心に心疾患、呼吸器疾患、腎臓病などについて指導可能との回答であった。多くが内科医であり生活習慣病に対する取り組みが実践されていると考えられた。また、対応可能なスポーツ障害ではOsgood、野球肘、シンスプリントなど主に整形外科医が担っている疾患の頻度が多かった。ほかにも女性アスリートの健康問題や月経異常・体重減少性無月経など産婦人科医の回答もあった。対応可能なスポーツ種目としては野球、サッカー、陸上、テニス、柔道が上位で、その他多くの種目に対して対応可能であるとの回答であった。これらのスポーツ障害に対して

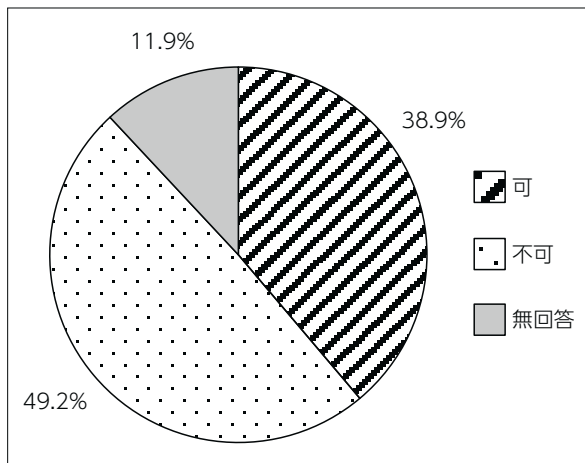


図1 スポーツ障害に対して、運動指導は可能ですか？

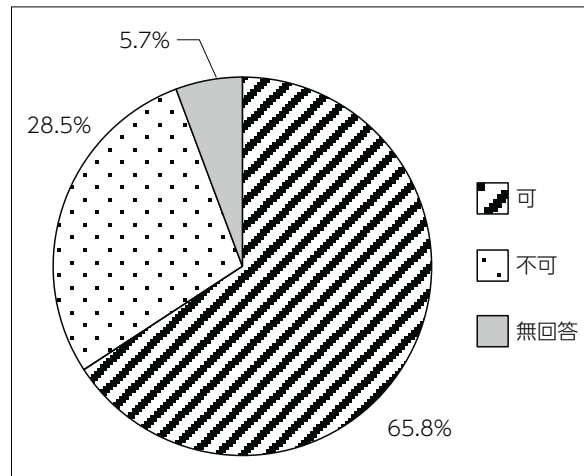


図2 介護予防のための運動指導は可能ですか？

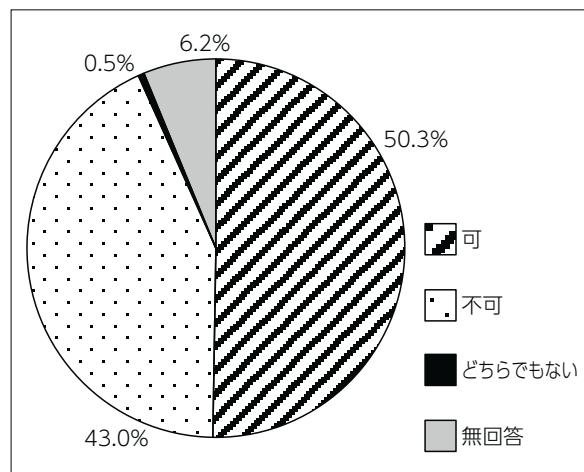


図3 地域保健センターや学校保健活動での講演・相談の活動は可能ですか？

の運動処方が可能であると回答した医師は38.9%と半数以下で、49.2%は不可との回答であった(図1)。一方、介護予防のための運動処方については半数以上(65.8%)が可能との回答であった(図2)。この結果は専門的な疾患に対する取り組みよりも、日常診療の中での疾病予防への取り組みが多くなされているものと考えられた。また、市民マラソン大会などの現場救護への参加は56.5%が可能であるとの回答に対して、国体や高校総体などへの出務に関して可能な医師は33.2%に減少している。これは、市民マラソンなどのスポーツ大会は日曜日や休日に開催されることが多く、出務が容易であるが、国体などは、平日開催となるため、開業医や勤務医ともに参加困難になることが要因の一つと考えられた。また、中学・高校のクラブ活動における相談医・指導医活動では可能(47.2%)、不可(48.2%)、スポーツクラブにおける相談医・指導医活動は可能(49.2%)、不可(45.6%)と現場で活動を行うことが可能な医師は半数以下であったが、地域保健センターや学校保健活動での講演・相談に対しては50.3%が可能との回答であった(図3)。約半数の健康スポーツ医が臨床現場以外でも相談や指導に対して肯定的であり、このような現場での活動を支援し、積極的に取り組む医師へのサポートが必要であると考えられる。

今後の方向性

兵庫県医師会では「兵庫県スポーツ医会」の名簿を作成し、アンケートの内容を含め、公開の了承を得た会員情報を郡市区医師会に示し、健康スポーツ医の活躍の場を拡大していくこととしている。さらに、今後の活動としては、一般人を対象とした健康サポート以外にも、競技者(アスリート)を対象とした専門的医学サポートや生涯スポーツとしてあらゆる年齢層に対してのスポーツ障害の予防や健康維持サポートを行い、また医師自らがスポーツに参加するためのサポートを柱として取り組んでいる。